

みずまただより

— かしこく やさしく たくましく —

第6号

令和7年9月8日

瑞穂野北小学校

発行者 阿久津 浩久



今年は41日間の夏休みでした。夏休みに入ってすぐ個人懇談を行い、担任から保護者の皆様へ4月からの子供たちの様子についてお話しさせていただきました。お忙しいところお時間を作っていただきありがとうございました。8月29日には再び子供たちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。おかげさまで大きな事故などの連絡もなく、職員もリフレッシュすることができました。子供たちから話を聞くと、地域の行事等にも参加して楽しい夏休みだったようです。大変お世話になりました。

さて、1学期も残すところ1か月あまりです。半年間の振り返りをするとともに、後半に向けた目標をもつことができるよう、教職員全体で支援して参りたいと思います。

合言葉「浮いて待て」 着衣泳 7月16日

5・6年生が着衣泳を学びました。今年も全国的に水難事故が相次ぎました。川や海などの自然の水環境はプールと異なり、予想外の事態に引き込まれるなど、過信が事故につながるものです。

大切なことは「着衣泳」といっても「泳ぐ」ことではなく、大原則は「浮いて待て」。浮きになるようなものがあれば利用する、なければ体を大きく広げてとにかく浮いて待つ。

夏休み直前でしたので掲載が季節外れになってしまいましたが、大切なことですのでご紹介しました。ちなみに児童はご覧のように大変上手に浮くことができていました。



コラム ～食わず嫌い～

先日、地域協議会の委員さんたちと児童が会食をしたときのこと。献立に「切り干し大根」がでたので委員さんは「子供たちは食べるのかな？」と心配したそうです。しかし、委員さんの不安をよそに、子供たちはおいしそうに食べていたので、「切り干し大根、好きなのね。」と話しかけると、「うん、家でもよく出るから。」とAさん。一方、「甘くておいしい。でも家では一度も食べたことないけどね。」とBさん。

Bさんにとっては給食で食のレパートリーが増えたわけでとても喜ばしいことですが、むしろ食べたことがないものは手を出さない、いわゆる「食わず嫌い」の方が多いのも事実です。献立は学校栄養士が栄養バランスに加え、少しでも子供たちの食が豊かになるよう、知恵を絞っています。ちょっとチャレンジしてBさんのような子が一人でも多く見られることを期待しています。

恵まれた便利な時代に生まれた子供たちにとっては、食べ物に限らず、未経験のことや難しそうなものなどに挑戦することへの必要感をもつことは難しいことなのかもしれません。しかし、そもそも学校における学習は、既存の知識や経験を生かして新たな知識や技能を獲得していくことです。私たち教師は、児童が興味や関心を高めるための工夫をしたり、新しいことに取り組みやすいようにハードルの高さを調整したり、獲得するまでの過程を実態に合わせたりしながら授業を構想・実践しています。子供たちには「チャレンジする力」をもってたくさんのご経験を、多くのことを吸収してほしいと願っています。